

県大 jiman

滋賀県立大学広報誌
第11号011
July. 2012

表紙企画・学生企画連動
県大って〇〇な大学



県大

特集
県大生が
つくる
新学長
就任
記念
座談会



を語る

特集 巻頭企画 県大の未来を語る 新学長就任記念座談会 新学長 × (学生+卒業生) = 未来を切り拓く	2
特別企画 今も続く震災復興支援活動 近江楽座プロジェクトに採択された4つの団体をピックアップ	5
学生企画 県大って〇〇な大学 県大ってどんな大学?	6
県大Report	
Labo Report 県大 jiman 研究室。今回は人間看護学部 小児看護領域です。	8
Class Report あの授業はどんな授業?今回は工学部材料科学科の「材料科学実験」です。	8
After School Report 今回は2011年に設立された新しい団体をレポートします。	9
Kendai Book Review 今回は「環境ブックレット6」と「大阪城を極める」を紹介します。	9
トピックス&インフォメーション 県大イベントカレンダー	10

「県大 jiman」について

琵琶湖と滋賀の自然をイメージカラーにし、胸を張って「自慢」する、明るく前向きに応援する気持ちをロゴにデザインしました。

 滋賀県立大学

The University of Shiga Prefecture

特集

成長できたこと

コミュニケーション力のアップ



県大の未来を語る 新学長×(学生十卒業生) 未来を切り拓く

滋賀県立大学は1995年の開学から18年が経過しました。人生に例えるなら、18歳はちょうど大学入学を迎える年齢です。今回は、2012年4月に第4代学長として就任した大田啓一学長と、在学生および卒業生による座談会を企画し、それぞれの立場から県大の魅力、県大にかける思い、そして“未来”について語っていただきました。



学長

皆さんは、地域活動や産学協同事業など様々な活動の中で、立場の異なる人々と交流し、さらにリーダーとして各団体の意見をまとめていくといった機会が多いと思います。大学で学んだことを実際にプロジェクトで活かしていますか？



学長

授業で学んだことが実践の場で活かされていると感じています。大学のクラブ活動では同世代間の交流が多いのですが、**日本酒プロジェクト**※1では、喜多酒造(東近江市)、小売店、地域の人々など様々な方と関わることになりました。異なる立場の人々と関わり、意見を聞きながらコミュニケーションすることで、良い刺激を受けました。



学長

未来看護塾※2でも、子どもから高齢者障がいを持つ人など、様々な条件の方と関わります。将来的に看護師や保健師として活躍していく際に必要なコミュニケーションの取り方、対人関係の構築の仕方などを勉強させてもらっています。



学長

学生には特に「コミュニケーション力」を身につけてもらいたいと思っています。そのコミュニケーションには3つの段階があります。

コミュニケーションの第一段階は、人の話をちゃんと聞くということです。相手のことを正しく理解する。これは自分自身に様々な教養を身につけていないとできません。つまり、コミュニケーション力を身につけるにはまず幅広い勉強が必要となりますね。



学長

今まで**EMO**※3では、自分たちだけで消灯活動(消し回り隊)していました。が、学生みんなが自ら習慣として節電を考えられるよう、トイレ内の張り紙をリニューアルして、意識を持ってもらえるように工夫しています。



学長

確かに以前よりも自立つよつよになり、「消さなきゃいけない」って感じるようになりましたよ。効果はばっちり出てますね!



学長

相手のことを思いやり、深く考えるというのコミュニケーションの第二段階です。話題に出た、張り紙を工夫して、自分の考えを人に理解してもらおうということは、コミュニケーション第三段階。そこでは正確に物事を相手に伝える力が必要とされます。



学長

皆さん様々な活動を通してコミュニケーション力を培ってきていますね。留学生会ではいろんな国の留学生たちとどのように交流しているのですか? 母国語や習慣が異なる留学生同士で、やはりコミュニケーションは難しいですか?



学長

留学生会※4には中国、韓国、モンゴル、ドイツからの留学生がいます。同じ寮に住み、互いに助け合いながら関係を深めています。普段は日本語でコミュニケーションをとりあっていますが、確かにどれだけ相手の言うことを理解できているのか、相手にどれだけ自分のことが伝わっているのかは本当に難しいと感じます。日本語でうまく伝わらない時は、英語など違う言語を使うことも一つの手段です。



県大 OG (米原市役所勤務)
亀山 芳香
Kameyama Yoshika

平成 22 年 3 月大学院人間文化研究科地域文化化学専攻博士後期課程修了。現在は米原市役所経済環境部商工観光課で観光振興を担当。学生時代は近江楽座のプロジェクトメンバーや県大 jimán 広報スタッフとして活躍した。好きな言葉は「実践」



滋賀県立大学 理事長・学長
大田 啓一
Ohta Keiichi

名古屋大学大学院農学研究科博士課程単位取得退学、農学博士。専門分野は環境化学、地球化学。本学環境科学部教授、同学部長を務め、平成21年4月～24年3月は教育担当理事、副学長、平成24年4月に理事長・学長に就任。好きな言葉は「長い目で見る」

■県立大学と地域社会で培うもの
↳地域との協力関係



学長

卒業生の立場から学生生活で身に付けたものの中で、社会に出て役立っていることはありますか？



亀山

私は現在、米原市の商工観光課に所属しています。大学では地域の資源を活用し、地域の資源を掘り起こして発信するという部分で、そういったものに価値を見出すかという視点を養えたと思います。社会人になっても自分の研究分野を活かしていると感じています。



学長

県立大学は彦根市をはじめ、様々な地域・自治体と協定を結んでいます。大学の授業で教えられることは全体の約6〜7割。残りは授業で教えきれない部分で、例えば「チームワーク」、「リーダーシップ」、「コミュニケーション力」などは、クラブ活動や課外活動、地域での活動でようやく学ぶことができます。そういった部分を地域で学べるようにと、地域の方々にもお願いをしています。地域社会にも教育していただく、そんな関係を築いていきたいと考えています。



大田啓一学長



亀山

地域の方々には私が県立大学出身とお話すると、「県大頑張っているね」と言われることも多く、学生の時よりもずっと周囲の評価を感じるようになりました。地域の人たちは凄く県大のことをみていらつしやると思います。「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」の方針のもとで、学生が地域に出てくるのを皆さん受け入れているみたいです。

■強いリーダーシップ

↳リーダーと協力者



学長

私も大学のリーダーですが、皆さんも各団体の代表。リーダーシップをどう考えていますか？代表をやっていて、楽しいことや苦労することは何ですか？



廣瀬

リーダーの周りには協力者が必要だと思っています。一人でやっても何も達成感を感じませんし、やったという事実しか残りません。協力者がいると、逆にリーダーが上手くいっていないときにサポートしてくれたり、本当に全員でやっていることを実感します。



栞

みんなで一つのイベントを成功させた時の達成感はとても嬉しく感じますね。



田中

私は副代表ですが、代表を支え頑張っています。引張るリーダーと協力者によってプロジェクトも進めやすくなります。



座談会の様子



中川

未来看護塾はとても人数が多く、70人以上いますので、団体をまとめることの難しさを強く感じています。自分が思っていることがメンバーに伝わっているのが不安になることもあります。



亀山

私も学生時代に近江楽座の活動に参加していましたが、いかに周囲を巻き込んでいけるか、というのが難しかったですね。それは市役所での仕事においても同じことです。主体性を大切にするために引っ張りつつも、一歩引いてみる。あくまで主役は市民の方という形で進めています。学生時代の経験やノウハウが役立っていますよ。



学長

リーダーは自分の考えをしっかり持っていて、その周囲にリーダーを理解してくれる人がいて、さらにその周囲にも理解者が拡がる。強いリーダーシップというのはまず第一に周囲にたくさん良い協力者を作ることが大事だと思います。



未来看護塾 代表
中川 杏奈
Nakagawa Anna

人間看護学部人間看護学科3回生。近江楽座Aプロジェクト「未来看護塾」代表、ゴスペルサークル Blessingにも所属。好きな言葉は「感謝を忘れないこと」



日本酒プロジェクト副代表
田中 美由紀
Tanaka Miyuki

環境科学部環境政策計画学科3回生。日本酒プロジェクト副代表、軽音楽部にも所属。好きな言葉は「一隅を照らす」



環境マネジメント事務所代表
廣瀬 忠義
Hirose Tadayoshi

工学部電子システム工学科4回生。環境マネジメント事務所(EMO)代表。好きな言葉は「なんとかする。なんとかしてみせる」



留学生会 会長
栞
Luan Yi

工学部機械システム工学科3回生。中国山東省出身の留学生。留学生会会長。好きな言葉は「努力した者がすべて報われるとは限らん。しかし、成功した者は皆すべからく努力しておる！」



県大 jiman 広報スタッフ
渡邊 早
Watanabe Saki

人間文化学部地域文化学科4回生。県大 jiman 広報スタッフ。今回の座談会企画担当。好きな言葉は「行ってみよう!やってみよう!」

■ 県立大学の未来像 ■

それぞれの持つ「エンジン」



学長

今から6年間、本学の目指すべき目標として滋賀県から示されていることが3つあります。

まず一つ目「選ばれる大学」になること、二つ目は「満足度の高い大学」になること、三つ目は「誇れる大学」になることです。学生とその周囲の人々が県立大学で学ぶことにより充実度を強く感じ、卒業するときに、「自分はあれをやったんだ。自分はしっかり活躍できた。」という実感があること。そして、卒業した時に、母校を誇れるような大学にしていきたいですね。この3つの目標をもとに、教育、研究、社会貢献、国際化の4つを柱として、様々な取り組みを進めたいと考えています。



亀山

県大は進化していると感じます。色々なところで県大の名前を聞いたり、新聞

※1 日本酒プロジェクト

「日本酒プロジェクト」は、東近江市の喜多酒造と大学生協と協同で、県大オリジナルグッズとして純米大吟醸「湖風」という日本酒を造るプロジェクトです。ものづくり・デザイン・営業活動に興味がある様々な学部学科の学生 20 名が、喜多酒造や県大教職員のサポートを受けながら、商品企画から販売活動まで携わり、自由な発想をぶつけ合いながら、より良い商品を目指しています。「湖風」は滋賀県内の酒販店で好評販売中です。



※2 未来看護塾

「未来看護塾」は近江楽座プロジェクトで約 70 人の人間看護学部生が活動しています。活動内容は、定期的な活動として彦根市立病院の小児科で子どもたちと遊んだり、緩和ケア病棟でのティーサービスを行っています。また、NPO法人ぽぽハウスでは、障がいのある子どもたちと一緒に買い物に出かけるなどの関わりをしています。さらに城南保育園でのボランティアも行っています。今年の 2 月には、生き生き健康支援活動として宮城県田の浦で復興支援イベントも開催しました。



※3 環境マネジメント事務所 EMO

「EMO」は、環境に関する国際規格 ISO14001 の運用や監査、改善活動を県大生協と取り組み、環境マネジメント支援を行っているサークルです。また同時に、県大生全員が環境活動に意識を持ってもらえるよう、EMO 消しまわり隊による啓発活動や、大学と環境活動に取り組んでいます。今年度は「県大生の環境意識を変える！」ことを目標に、ポスターやキャンペーン活動を計画・実施しています。部員数 10 名という小さなサークルですが、大学や生協と共同で“変える”取り組みに挑戦しています。



※4 留学生会

「留学生会」には中国をはじめ、各国からの留学生が所属しており、日本に来たばかり、あるいは大学に入ったばかりの新入生の生活や勉強などを指導応援しながら、日本の方々との交流を増やし、日本社会に対する理解を深めるため、いろいろな活動を主催する会です。現在、大学院生も含めて、100 人以上のメンバーが所属しています。普段は食事の時間しか会えませんが、定期的に BBQ や旅行などの活動を行っていますので、皆とても仲が良いです。



で見たりすると本当に嬉しく思います。私自身、県大の卒業生ということを凄く誇りに思っていて、自分が大学の広告塔として「県大ってこんな良いところなんだよ」って上手くPRできたらと思うています。ぜひ皆さん自身が県大の魅力を発信して頂けたらと思います。



栗

地域活動だけではなく、一人の先生に対して指導する学生が少ないという「少人数教育」も県大の大きな魅力と感じています。よい環境を活かし、これからも優れた人が育つ大学であってほしいですね。



田中

私はプロジェクトに参加することで自分の意見をちゃんと持つて上手く伝えられるようになりました。これからも学生主体のプロジェクトをどんどん進めていき、地域の方々に支えられながら、社会から必要とされる人材が育つ大学になってほしいです。

プロジェクト同士連携も凄く大事だと感じています。それぞれのプロジェクトが持っている特性を活かして、協同して何か一つのイベントを作り上げる。そして地域の方にも参加してもらおうというの必要なと思います。



廣瀬

4年間の活動を通して、色々サポートして頂き、やりたいことはどんどんやらせてくれる大学だと思いました。人から言われたからやるのではなく、自分はこうやりたいという思いを実現できる大学であり続けてほしいですね。



渡邊

自分からアクションを起こさないと何も出来ません。これから県大生になる人には、自ら積極的に参加する気持ちをもってほしいですね。そして、皆が一步を踏み出していけるようなサポートのできる

大学になってほしいと思います。



亀山

これからもどんどん進化していくと思いますが、卒業生がまた戻ってきてたくなるような、いつまでも変わらない県大の雰囲気はぜひ残して欲しいなと思います。



座談会を終えて

未来看護塾



特製「伊丹スープ」を振る舞う

被災地の方々が抱えている思いを吐き出せる場所がないのではないだろうか、現地の人がお互いに話せる場所も機会も少ないのではないかと。今回の訪問を踏まえて今年度も、田の浦での支援活動を行いたいと思っています。

「復興の祈りをスープに込めて」
今年、2月22日に宮城県南三陸町歌津田の浦地区で「田の浦復興ワカメまつり」を開催しました。参加したのは未来看護塾のメンバー14人。11時にスタートした「ワカメまつり」では、伊丹スープ（未来看護塾顧問で人間看護学部伊丹先生レシビによる特製のスープ）に、田の浦で漁師さんと一緒に収穫したワカメを入れて提供し、足湯・手湯なども準備しました。当日は、田の浦の方々にたくさん来て頂き、パフォーマンスとして練習してきた「マル・マル・モリ・モリ」のダンスを披露すると、一緒に踊ったり、笑ったりと、とても喜んでくれました。伊丹スープも大好評で、多くの方々に食べてもらえました。また、足湯や手湯では津波が起きたときの話を、最近の話などいろいろなお話を聞くことができました。



ダンスを披露

木興プロジェクト



メンバーによる建設工事

「必要とされるものをつくりたい」
木興プロジェクトは、滋賀県立大学加子母木匠塾を母体とした建築デザイン学科・生活デザイン学科の学生が立ち上げた震災復興支援プロジェクトです。建築・デザインを学ぶ私たちに何ができるのか、何かできないかという思いをきっかけに、ものづくりによる支援活動を目的としています。昨年度の活動は、宮城県本吉郡南三陸町歌津田の浦に、漁業の支援となる番屋（作業小屋）を建設しました。完成したときの歓喜だけでなく、作業期間中には毎日現地の人たちとの他愛もない会話があり、私たちと現地の人との関係は育まれました。今年度は、被災して2年目を迎える田の浦集落の人々全体に対して支援を行いたいと考え、寄り合いイベントが行える建物を目指しています。

「必要とされるものをつくりたい」
現地の人たちと私たちが結びつきながら、自らの手を動かしてひとつの建築が建つ。何よりもその意味の深さを知ることができ、復興に向かつて日々前進している被災地に対して、今後必要とされるものをつくることを目指していきます。



完成した番屋

私たちにできること

今も続く震災復興支援活動

平成 24 年度近江楽座Aプロジェクトに採択された中から、震災復興支援活動に取り組む4つの団体を紹介します。

たけとも 一竹の会所 友の会



写真展「笑顔の集まる場所」

「竹の会所をもっと気軽に、誰にでも使っていたらいいように」をテーマに、4/30〜5/6には写真展「笑顔の集まる場所」などのイベントを企画開催しました。多くの地域の方に声をかけていただき、これまでに以上に地域の方々・子ども達との交流することができ、充実したワークショップとなりました。"子供たちのために"、"未来を語り合う場を"、8月下旬にも夏季ワークショップを予定しており、様々な企画を検討中です！



竹の会所外観

この会所でのイベントやワークショップ、さらに整備メンテナンスなどを通して、地域の方々と共に未来を語り合える場を築き続けていくことを目的として活動しています。

現在の竹の会所はまだ完全な集会場とは言えません。電気が使用できるようになりましたが、いまだ水は使えません。「たけとも」は、震災直後の2011年4月頃から地域の方々と共にプロジェクトを進め、本学の学生をはじめ、総勢70人の協力によって竹の会所は完成しました。

「子どもたちのために」未来を語り合える場を。

ほたてあかりプロジェクト

「キャンドルの灯りで復興を願う」
宮城県本吉郡南三陸町歌津田の浦は漁船が流され、漁港や漁具も被害を受けました。そのような中で、漁業復興までの間、浜の女性たちに仕事を、そして「あの日のことを忘れないでほしい」と、学生と田の浦の女性たちが一緒に作り始めたのが「ほたてあかり」プロジェクトです。「ほたてあかり」は田の浦にある養殖用のホタテ貝と滋賀のお寺で出る残燭を使って作られるエコキャンドルで、貝の内側には「絆」など手書きのメッセージが添えられます。企画、商品開発、販売を15名の学生が担当し、製造を9名の田の浦の女性たちが分担して行いました。1個500円で販売し、経費を除いた収益は女性たちの収入と田の浦の復興資金にそれぞれ充てられます。活動は多くの方々と共に感じいただき、4ヶ月の間に約4800個（240万円）売ることができました。田の浦にお金が入ること以上に、遠く離れた滋賀と田の浦が、「ほたてあかり」を通じてつながることがとても重要だと感じています。



ほたてあかり

この活動は、本格的な漁業復興まで田の浦の女性たちと一緒に続けていきます。



田の浦の女性たち



生協のおばちゃんがキュートな大学

おばちゃんたちは栄養面のサポートだけではなく、いつも笑顔で私たちを癒してくれます。そんなおばちゃんに人気の食堂メニューを聞きました。

「今の季節は、『冷やしとろろうどん』や『ネギとろろユッケ丼』など冷たいものが人気ですね。『韓国風ビビン冷麺』、『葉念醬豆腐(ヤンニョンジャン)』などの辛いものフェアも開催中でおススメです！定番の人気メニューは、『若鶏の醤油揚げ』と『日替わり定食』です。ご来店お待ちしております！」

kofooが熱い大学



湖風祭実行委員会(通称:kofoo(コフー))では、県大を盛り上げるため6月に湖風夏祭と11月に湖風祭を開催しています。企画や演出はもちろん、ステージの設営まで全てを学生が手懸けています。

今年の湖風祭は11月10日(土)と11日(日)の2日間に亘って開催！ステージ企画はもちろん、模擬店やフリーマーケットも大規模出店。県大で1番“アツい”2日間を見逃すな!!



手作りのアーチで出迎え



メインステージでのパフォーマンス

カモのいる大学



県大の大学案内やオープンキャンパスのポスターに登場することが多いカモとアヒル。実は、カモを1羽、アヒルを2羽飼っていて、そのカモたちのお世話を「鴨部」まであるんです！まさに県大のマスコットの存在です。

環濠の側を歩いていると仲良く泳ぐカモたちに出会えることも！他にもネコや羊なども…県大には動物がいっぱい!?



オシャレな大学



「公共建築百選※」にも選ばれている県大の設計には、複数の建築家が参加し多様なキャンパス空間を創る「マスターアーキテクト方式」が採用されています。キャンパス全体は集落をイメージしており、環濠に沿って校舎が並びます。各学部棟ごとに設計者が違うので、比べてみると雰囲気違っておもしろいですよ♪

また、食堂のナカニワテラスは、生活デザイン学科の学生がデザインし、2009年グッドデザイン賞を受賞しています。

※旧建設省の設立50周年を記念し、地域社会への貢献度が高く地域に根ざし優れた公共建築を選定した(1998年)。大学としては唯一の選出である。



ナカニワテラス



環境科学部



工学部



人間文化学部



人間看護学部

個性豊かな大学

県大って○○な大学

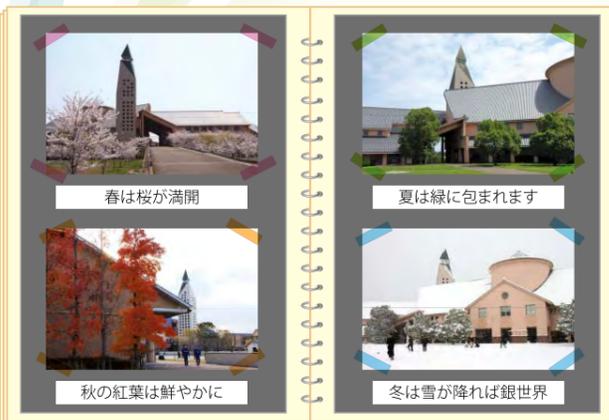


「県大ってどんな大学？」学生、教職員にインタビューしました！県大の新たな魅力が見つかるかも!?表紙や裏表紙にも載ってるので見てみてね☆

県大は総合大学。4つの学部と13の学科があり、さまざまな分野を学ぶことができます。さらに学生2,400人に対し、教員は200人以上と、学生と先生の距離もとても近いのが特徴です。大学も学生も個性豊かです。

学生インタビューで1番多かったのがこの回答！県大と言えば“自然”豊かなキャンパスです。広さは320,000㎡、なんと甲子園球場の約8.3個分です。県大の自然環境について、環境科学部環境生態学部の野間先生にインタビューしました。

県大では芝生に除草剤を使わないようにしたり、学生の手で水路を管理したりすることで環境や健康に優しい管理を行っています。その結果、貴重な草が生えてきたり、犬上川から鳥やホタルが来るようになりました。こうした努力の結果、設立当初よりも一層周りの自然とつながったキャンパスになっています。



春は桜が満開

夏は緑に包まれます

秋の紅葉は鮮やかに

冬は雪が降れば銀世界



野間直彦 先生



自然がいっぱいな大学

地域に根ざしたステキな大学



県大ほど、学生が地域に入って活動している大学は珍しいのでは？このことについて、地域連携・学生支援担当理事の仁連副学長にインタビューしました。



限界集落の村おこし「男鬼楽座」

県大には近江楽座の他にも、近江環人地域再生学座や地域学副専攻など、学生が地域に入って活動がたくさんあります。地域は学生の力を頼りにしているし、学生は地域で実践力を身につけることができます。win-winの関係を築いていると言えるでしょう。だからこそ、地域に根ざした大学なのです。



リサイクルキャンドル「あかりんちゅ」



仁連孝昭 副学長



地元伝統産業の仏壇づくり、仏壇職人を知ってもらう～金箔押師さんからの聞き取り調査～



畑作業で地域を元気に、畑作業を若い世代に～子どもたちとサツマイモ掘り～



地域住民や学生の食生活の改善や健康意識の向上を目指して～食育フェア、骨密度測定～



いつもありがとう



冷やしとろろうどん



カフェテリア:約650席

音楽会サイコー!!な大学

オーケストラ、吹奏楽、ウクレレ、ゴスペル、琴、JAZZ……県大には音楽系のクラブ・サークルがたくさんあります。中でもアコースティックサウンドクラブ、Big×Band部、軽音楽部は、3つ合わせて“音楽会”と呼ばれ、合同でライブを行うことも！自分たちで作詞作曲、レコーディングしたCDを自主制作するバンドもあります。

秋の湖風祭では学年・学部学科を越えたバンドがたくさん出演しますので、ぜひライブにお越しください！



吹奏楽部ピバシティでの演奏



荒神山ロックフェスでのライブ



湖風祭でのライブ

Labo Report

人間看護学部人間看護学科 小児看護領域

子どもの権利を尊重する看護

小児看護領域は、古株ひろみ准教授、鬼頭泰子助教、サポート役として川端智子助手の3人でゼミ学生を担当しています。

私たちの研究テーマは、子どもの権利を尊重する看護を探究することです。

最近の小児看護では、プレパレーション（心理的準備と訳されている）という取り組みが広がりつつあります。これは子どもが病気になったり、入院をした時に、これから自分に起こる事を理解・イメージし、自分で納得して治療に向かうように支援することです。子どもの混乱や恐怖を少しでも軽減し、子どもとその家族が主体的に治療に取り組んでいけるように働きかけます。このような「看護師のプレパレーションへの支援に向けた研究」以外にも、障がい児の生活を支える「特別支援学校の看護師に対する研究」「親の病気を子どもに告知する際の支援に関する研究」「NICUでの母乳育児支援に関する研究」「小中学生への防煙授業の取り組み」などに取り組んでいます。

小児看護領域では、病気がある、ないに関わらず、一人の子どもとして捉え、看護職（看護師・保健師・養護教諭）としての課題を見つけ、自ら研究に取り組んでいけるように学生を指導しています。ゼミの学生同士の交流では、現代の子どもを取り巻く課題や子どもの発達など、子どもの理解を深めるための討議を重ねています。さらに、各自が目指す進路に進むことができるように、共に助け合い、協力し合い、励ましあって1年間を過ごしています。卒業研究発表会には次年度のゼミ生も参加し、国家試験に向けての勉強方法や資料提供などゼミ生同士の引き継ぎもあり、先輩後輩のつながりを大切にしています。今年は、学部生がOB・OGのゼミ生達と交流する機会が持てるように企画しています。私たちは学生に、“子ども達に何ができるのか”を考える姿勢を持てるように指導しています。また、この輪が少しずつでも広がっていくことを願っています。



研究室DATA

小児共同研究室：E4-211
ゼミ生：井戸 祥平、岡田 裕美、瀬戸 亜里沙、細川 美佳（4名）
学生からの一言：教員と学生との距離が近く、和気あいあいとした雰囲気楽しく小児看護についての学びを深めています。（BY 岡田）

Class Report

技術立国を支える「ものづくり」とその評価技術の基礎

材料科学実験

工学部材料科学科専門科目

担当教員：宮村弘、井上吉教、徳満勝久、吉田智、山下義裕、近藤淳哉、秋山毅、谷本智史、竹原宗範、鈴木厚志、伊田翔平

自動車や家電製品などはすべて、材料（＝役に立つ物質）の組み合わせで出来ています。しかし製品の機能は目に見えても、多くの場合、「材料の機能」は見ただけでは判りません。しかし、材料に種々の信号を送ってやると、それに応じた答を返してきます。この時、材料は実に多くの事を語ってくれるのです。これによって我々は、物質を構成する原子の並び方や分子の構造をはじめ、それらがどのように集まり、影響しあうのかを知ることができます。そしてその情報を基に、新しい材料を設計することが可能になります。

材料科学では、このような解析を行なうために多くの分析機器を使います。電子顕微鏡や核磁気共鳴、X線回折などの大型機器をはじめ、様々な物性評価装置など、いろいろな機器類があります。このような機器類はいずれも、材料の語る言葉を精密に分

材料科学実験第1期：「結晶組織と力学特性」
マイクロピッカース硬度計による硬さ試験 ▼



▲材料科学実験第1期：「結晶組織と力学特性」
鉄鋼材料の組織観察のための研磨

析するためのものです。使う機器は材料の種類ごとに異なりますが、解析の考え方やアプローチは基本的に同じです。

材料科学実験では、ものを実際を作るプロセスと、それらの性質の評価・解析の両方をバランスよく行います。いろいろな物質を合成し、精製するとともに、そうして得られた材料について、いくつかの代表的な機器を用いて評価・解析の基礎を学ぶことにより、「ものづくり」に必要な基本的操作や考え方などを修得します。

琵琶湖水中考古学研究会

琵琶湖水中考古学研究会は、17 人メンバーで琵琶湖の湖底に人知れず眠る遺跡の調査・研究を行っています。昨年は長浜市祇園町の沖合に所在する西浜千軒遺跡を調査しました。この遺跡は「昔、西浜村と呼ばれる村が存在したが、室町時代の寛正年間（1460～1466）に起きた大地震によって湖底に沈んだ。」と伝承が残っています。調査では村の墓地と考えられる石組み遺構や、石仏・五輪塔などの遺物も見つかり、初めて集落の一端を発見しました。

さらに調査の結果、集落を沈めた地震は伝承より約 120 年後の天正 13 年（1586）の大地震であることが明らかになりました。これらの成果は、長浜城歴史博物館で特別陳列「西浜千軒が語る水没村の世界―天正大地震と長浜―」として開催し（6/4～7/17）、説明会も行いました。今後も調査・研究を通し、新たな発見が出来ればと日々活動しています。

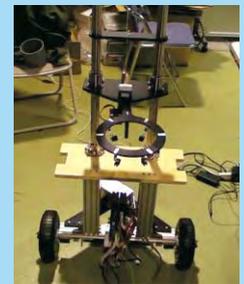


Oumi Machina

Oumi Machina は、ロボコンに出場し、優勝することを目指して活動しています。ロボコンはアイデア勝負なので、クラブでは「機械の常識にとらわれない新しい発想で、ロボットを作る」、「安価で高性能なロボットを作る」ということを大切にしています。

創部当初は、部員全員にロボコンの経験がなく、昨年の NHK ロボコンに出場するために挑戦したロボット製作は、残念なことに第 1 次ビデオ審査で落選してしまいました。現在は、今年の 9 月に開催されるキャチロボバトルコンテストに出場し、優勝するためにロボットの設計＆製作を行っています。今年こそは、NHK ロボコンに出場したいと思っています。

初めての人には部員が丁寧に教えますので、初心者も大歓迎です。また、工学部以外の人も大歓迎！



えんぴつ塔の秘密結社 IU

えんぴつ塔の秘密結社 IU は、週に 1 回集まり、前の週に決めたテーマで議論、討論をするというディベートを中心に活動をしています。

滋賀県立大学には残念ながら学術系サークルがほとんどありません。もちろんゼミなどでの勉強会がありますが、せっかく大学という場所にいるのだから、他学部や他学科の学生と考え方や知識を共有したいという目的もあり、このサークルを設立しました。議題・テーマは、政治・経済や身の回りのことについてなど、特に縛りを設けずにそれぞれに興味のあるものについて提案してもらい、何でも扱います。最近では、時間を決めて討論する競技ディベートを行うには、人数やデータを集める時間が足りなくなり、インターネットのページでの議論も平行してやっと思っています。

ディベート経験の有無や専門知識に関係なく、興味のある方は大歓迎です！



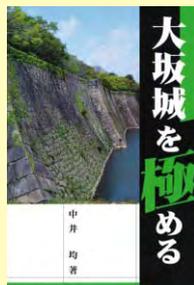
Kendai Book Review

「大坂城を極める」

著：中井 均（人間文化学部地域文化学科）

大坂城といえば豊臣秀吉という方も多いのではないのでしょうか。しかし、現存するものは徳川幕府の再築によるもので、秀吉の築いた大坂城は一切残っていません。徳川大坂城の遺構は、日本近世城郭のなかで最大級の規模を誇りながらも、わずか10年間の工事で完成したという徳川幕府の威信のこもった築城だったのです。

そんな徳川大坂城を徹底ガイドした本書。写真も豊富に、その歴史や構造、豆知識を紹介しています。この本ひとつで大坂城歩きが100倍楽しくなる！そんな少々マニアックなガイドブックです。



「昔ここは内湖やったんよ ― 記憶に残る小中の湖と人々の営み ―

滋賀県立大学 環境ブックレット6」

著：松尾さかえ・井手慎司（環境科学部環境政策・計画学科）

琵琶湖から独立した「内湖」と呼ばれる湖の一つ、『小中の湖』。第二次世界大戦による食糧事情の悪化に伴い干拓され、現存しません。小中の湖が干拓前に果たしてきた機能について、調査を行った松尾さん（本学卒業生）の成果が、当時同内湖周辺で暮らしていたおじいちゃん、おばあちゃんへの聞き取り調査の会話を交えて記されています。鳥類・貝類・魚類の生息地や漁業やヨシ産業といった産業の場、または、湖底の水草や泥の利用、子どもの遊び場として人々の暮らしと密接にかかわってきた小中の湖。近年、内湖再生に向けた動きがみられる中で、姿かたちだけでなくその機能を復元し、現代に適応した維持の方法を確立していく必要性を伝えています。



Topics & Information

TOPICS

01

工学部 J A B E E
の認定を受ける

本学工学部、材料科学科の「材料科学と材料技術プログラム」および機械システム工学科の「機械システムプログラム」が、日本技術者教育認定機構(JABEE)の日本技術者教育認定基準に適合していることが認定され、4月27日付け認定証が授与されました。認定開始年度は2011年度となります。JABEEから認定された技術者教育プログラムを修了すると、専門技術の知識と能力を備えた実践的技術者であることが保証され、「修習技術者」の資格を得ることができます。また、申請により「技術士補」の免許を得ることができるとともに、国家資格である「技術士」の資格を取るときに、その1次試験が免除されます。さらに、JABEEから認定された技術者教育プログラムは、国内のみならず国際的な水準であることが保証されます。

電子システム工学科のプログラムについても本年度に認定審査を受ける予定です。

■日本技術者教育認定制度とは
大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが社会の要求水準を満たしているかどうかを外部機関が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定(Professional Accreditation)制度です。



授与された認定証

TOPICS

02

カリフォルニア州立大学モントレイ校と交流協定を締結しました

平成24年5月22日、アメリカのカリフォルニア州立大学モントレイ校(California State University Monterey Bay)と学術交流を促進するための一般交流協定を締結しました。

モントレイ校は、23あるカリフォルニア州立大学の内の一校で、22の学部と8の研究科を擁します。5.6kmあるキャンパスはその名の由来ともなったモントレイ湾からわずか1.6kmほどの距離に位置します。学生数は5000人ほどで、居住環境が充実しているため、そのうちのおよそ半数がキャンパス内の寮に住んでいます。

今後は本学との交換留学に関する事項を中心に、具体的な協議が進められる予定です。



モントレイ校

TOPICS

03

ウインドサーフィン部
学生連盟ナショナルチームへ
参加

本学ウインドサーフィン部に所属する永野祐大さん(工学部材料科学科4回生)が、3月6~8日に静岡県浜松市で行われた学連ナショナルチーム選考レースおよびインカレ2011の成績で総合4位となり、日本学生ボードセーリング連盟のナショナルチームに選ばれました。また、チームのキャプテンを務めることになりました。これまで同部からナショナルチームに選ばれた選手はありませんでしたが、キャプテンとしては創部以来、初めての選出となります。

今後、学生日本代表としてスペインなどで開催される世界大会に出場します。



公式ユニフォームの永野さん

TOPICS

04

学生表彰

◆学生表彰受賞者
【個人】
環境科学部環境生態学科4回生 吉村 元貴さん
環境科学部環境建築デザイン学科4回生 石丸 翔一さん
人間文化学部地域文化学科4回生 宮本 涼太さん
人間文化学部生活デザイン学科4回生 肥川 修士さん

【団体】
いぶきクラブ(17名)



学位記授与式での表彰



団体表彰 いぶきクラブ

TOPICS

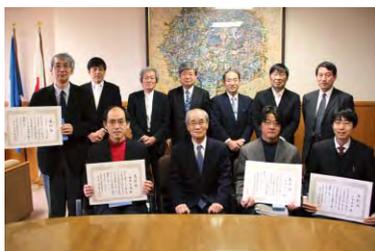
05

優秀職員
表彰

本学では、特に顕著な業績のあった職員に対する優秀職員表彰制度を設けています。各学部等から推薦を受け学内にて審議した結果、5名の教職員について優秀職員として表彰することを決定し、3月16日(金)に表彰式を行いました。

表彰者は次の方々です。

- 陶器 浩一 教授 (環境科学部環境建築デザイン学科)
 - バラチャンドラン ジャヤアワン 教授 (工学部 材料科学科)
 - 細馬 宏通 教授 (人間文化学部人間関係学科)
 - 森 敏 教授 (人間看護学部人間看護学科)
 - 上田 洋平 特定プロジェクト研究員 (地域づくり教育研究センター)
- ※平成23年度所属職・氏名



学長室での授与式

TOPICS 06

県大オリジ
ナル日本
酒を発売
しました

本学の学生が商品企画から販売プロモーションまで携わる産学共同企画「日本酒プロジェクト」による、2年目の純米大吟醸「湖風」が完成し発売を開始しました。
第2期プロジェクトは昨年10月から始動し、酒造見学・酒造研修・新酒しほり、学内試飲会などを実施してきました。

今作の「湖風」では、大学付近の農家と契約栽培した、環境こだわりの農産物認証を受けた「日本晴」を使用し、味にふくらみを持たすことができました。県立大学生協および彦根市内の酒販店で発売しています。

「容量小売希望価格」
720ml 1575円(税込)
1800ml 3150円(税込)



完成した純米大吟醸「湖風」



完成した純米大吟醸「湖風」

受賞・表彰

◆個人(教員等)

曾我 直弘 前理事長・学長
平成24年春の叙勲 瑞宝重光章
沖野 教郎 名誉教授
平成24年春の叙勲 瑞宝中級章

工学部

山根 浩二 教授
(社)日本機械学会 フェロー称号

人間文化学部

柴田 克己 教授
平成24年度日本栄養・食糧学会 学会賞

人間文化学部

福波 努 准教授
日本アミノ酸学会 科学・技術賞

人間文化学部

南 和広 准教授
日本ウォーキング学会・日本ウォーキング協会
日本ウォーキング学術賞(江橋慎四郎賞)

◆個人(学生)

大学院工学研究科博士前期課程
2年生 熊澤 直人さん

◆個人(クラブ)

(社)自動車技術会 2011年度大学院研究奨励賞

工学部

伏木 勇太さん
三十三間堂大(おおま)全国大会
成人男子の部2位

人間文化学部

牧ノ矢明子さん
成人女子の部2位

〈ウインドサーフィン部〉

中村 有希さん
3回生

工学部

松島 渚さん
3回生
関西選手権第一戦3位

人間看護学部

松島 渚さん
3回生
同 レディースクラス2位

〈陸上競技部〉

中川 さよさん
3回生
環境科学部

環境科学部

中川 さよさん
3回生
彦根市体育協会 平成23年度優秀選手

◆団体(クラブ等)

ウインドサーフィン部

彦根市体育協会 平成23年度優秀団体

関西選手権第一戦 団体優勝

あかりんちゅ

国際ソロプチミスト彦根 クラブ賞

人事異動

着任

平成24年4月1日付



宝田 隼
工学部 助教



池之上 卓己
工学部 助教



矢野 仁康
人間文化学部 教授



藤木 庸介
人間文化学部 准教授



奥村 万寿美
人間文化学部 准教授



渡邊 香織
人間看護学部 教授



中川 美和
人間看護学部 助手



伊藤 あゆみ
人間看護学部 助手

事務局次長 山岡 和士
総務グループ 統括 高居 重裕
総務グループ 副統括 小坂 哲治
総務グループ 主幹 山川 浩司
財務グループ 主幹 山出 隆
財務グループ 主事 塚本 康二
財務グループ 主事 橋本 淳
学生・就職支援グループ 統括 水野 潔
学生・就職支援グループ 主事 鈴木 健太
教務グループ 副主幹 藤川 佳伸
教務グループ 副主幹 中嶋 剛志
図書情報グループ 副主幹 林出 邦夫

平成24年5月1日付



平田 弘美
人間看護学部 准教授



大久保 恵子
人間看護学部 助手

所属替え

総務グループ 主事 北辻 志保(財務グループより)
財務グループ 主事 松浦みのり(教務グループより)
経営戦略グループ 統括 垣立 俊和(総務グループより)
教務グループ 主査 山川 祐司(総務グループより)
教務グループ 主任主事 岩間 希(経営戦略グループより)
教務グループ 主事 青世 千絵(地域貢献研究推進グループより)
地域貢献研究推進グループ 主任主事 林 周(教務グループより)

退職

環境科学部 教授 三田村緒佐武
人間文化学部 教授 那須 光章
人間文化学部 教授 高山 博史
人間文化学部 准教授 山根 周
人間文化学部 講師 吉田 龍平
人間文化学部 教授 岩谷 澄香
人間看護学部 教授 北村 隆子
人間看護学部 准教授 畑野 相子
人間看護学部 准教授 金森 京子
人間看護学部 助教 前川 直美
人間看護学部 助教 山田亜希子
人間看護学部 助教 安田 千寿
国際教育センター 教授 上村 盛人
財務グループ 統括 小島 隆司
学生・就職支援グループ 副主幹 柳瀬 吉美



7月	25	水	第1回琵琶湖塾 講師：古賀茂明氏 (大阪府市統合本部特別顧問、元経済産業省大臣官房付)
	28・29	土・日	オープンキャンパス 2012
8月	上旬		インターンシップ(～9月下旬)
	8	水	夏季休業開始
	8	水	大学院入学試験(工学研究科博士後期課程)
	8	水	3年次編入学試験(工学部)
	8～10	水～金	集中講義期間
	9～29	水～水	レイクスベリオル州立大学(LSSU) 夏期プログラム
	9	木	大学院入学試験(工学研究科博士前期課程)
	22	水	第2回琵琶湖塾 講師：玄秀盛氏(一般社団法人日本駆け込み寺代表)
	30	木	大学院入学試験(人間文化学研究科生活文化学専攻博士前期課程)
9月	1	土	3年次編入学試験(人間看護学部)
	1・2	土・日	荒神山ロックフェス 2012
	4	火	3年次編入学試験(環境科学部)
	19	水	第3回琵琶湖塾 講師：石井美恵子氏(日本看護協会看護研修学校主任教員)
	5～26	水・水	集中講義期間
	25・26	火・水	大学院入学試験(環境科学研究科博士前期課程)
	27	木	大学院入学試験(環境科学研究科環境計画学専攻博士後期課程)
	30	日	夏季休業終了
10月	1	月	後期授業開始、後期公開講義開始
	10	水	第4回琵琶湖塾(公開琵琶湖塾) 講師：ベニア・スタール・スミス氏(ベニアインタナショナル 代表 ハーブ 研究家)
	18	木	第9回就職セミナー(就職活動直前対策セミナー)
	18・19	月	大学院入学試験(人間文化学研究科地域文化学専攻博士前期課程)
	20	土	第10回就職セミナー(一般常識試験対策セミナー)
	27	土	第11回就職セミナー(SPI試験対策セミナー)
	31	水	第12回就職セミナー(就職活動体験談発表)
11月	6	火	大学院入学試験(人間看護学研究科修士課程)
	9	金	「湖風祭」前日準備(全学休講)
	10・11	土・日	大学祭「湖風祭」
	10・11	土・日	入試相談会
	12	月	「湖風祭」後片付け(全学休講)
	14	水	第5回琵琶湖塾(公開琵琶湖塾) 講師：柳本晶一氏(773・北京リトル・ツクバレボ・ル全日本女子子4監督)
	17	土	第13回就職セミナー(エントリーシート対策セミナー)
	21	水	第14回就職セミナー(合同企業説明会準備セミナー)
	25	日	特別選抜試験
	28	水	第15回就職セミナー(グループディスカッションセミナー)
12月	5	水	第16回就職セミナー(業界研究・企業研究セミナー)
	12	水	第6回琵琶湖塾 講師：佐々木常夫氏(株式会社東レ経営研究所特別顧問)
	22	土	第17回就職セミナー(面接対策セミナー)
	29	土	冬期休業開始
1月	6	日	冬期休業終了
	8～10	火～木	集中講義期間
	14～21	月～月	業界企業研究会(合同企業説明会)
	18	金	大学入試センター試験前日準備(全学休講)
	19・20	土・日	大学入試センター試験

県大イベントカレンダー

滋賀県立大学広報誌「県大 jiman」は県大が持つキラリと光る「jiman」なところを紹介する広報誌です。今回の特集は、新学長就任記念として在学生・卒業生との記念座談会を企画しました。普段はあまり接することのない学長と意見を交わすことができ、学生にとっても良い経験になったのではかと思えます。「県大 jiman」をよりよい広報誌に育てていくために、今後もみなさんの協力をいただきたいと思いますので、ご意見・ご感想をお寄せください。

学生広報スタッフ大募集！ 広報誌作成グループでは、県大 jiman の作成に参加してくれる学生を募集しています。私達と一緒に、県大の素敵な「jiman」をしてみませんか。デザインの専門知識がなくても大丈夫です。興味のある方は、気軽にお問い合わせください。

- | | |
|--|--|
| 表紙企画、教職員や生協の方、学長もいますよ～！ (人間文化学部4回生 筒井 明日実) | 沢山の手に手にとって頂ければ嬉しいです。 (人間文化学部3回生 宮川 侑子) |
| たくさんの方の笑顔と協力にありがとうを！ (人間文化学部4回生 中西 未紅) | みなさんも県大のいいところを探して下さい。 (工学部 河崎 澄) |
| 久々に本を読みました。ブックレットだけど…。 (環境科学部4回生 井上 はづき) | もっと jiman できる県大 jiman に！ (人間文化学部 佐々木 一奏) |
| kofoo がアツい県大！みんな遊びにきてね。 (人間文化学部4回生 平井 菜々子) | 学生による編集。興味深い記事です。 (環境科学部 柴田 裕希) |
| 県大 jiman 編集に初参加です！ (人間文化学部4回生 渡邊 早) | あなたも学長とお話してみませんか？ (事務局 茶谷 忠宏) |
| 協力して下さいみなさんに、感謝！ (人間文化学部3回生 福島 渚) | |

滋賀県立大学広報誌「県大 jiman」第11号
 発行 / 滋賀県立大学広報委員会
 編集 / 広報誌作成グループ
 〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500
 Tel.0749-28-8200 Fax.0749-28-8470
 URL : www.usp.ac.jp/
 E-mail : webmaster@usp.ac.jp
 発行日 / 2012年7月20日

表紙デザイン
 人間文化学部生活デザイン学科4回生
 筒井 明日実 / 中西 未紅

